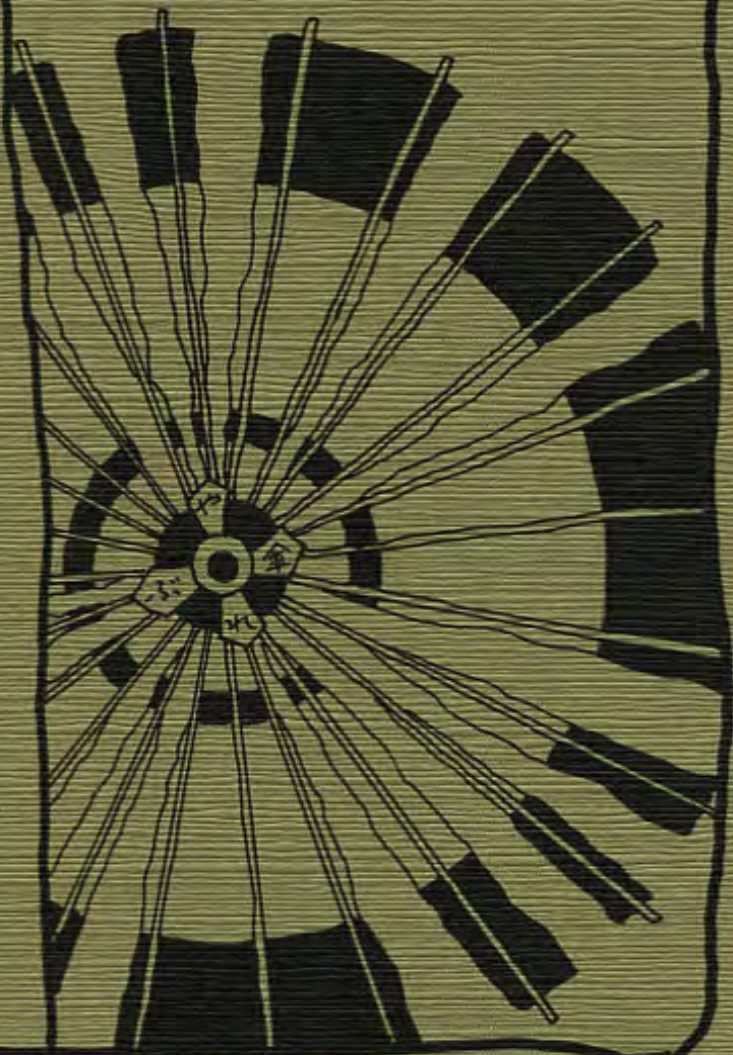


# やぶれ傘



七十四号

二〇一三年十月

千振の干されながらに売られぬる 根橋宏次

名月の物干竿に挟まるる きくちきみえ

目鼻無き案山子笑うてゐるやうな 廣瀬雅男

草の香を登り下りの道すがら 大島英昭

かみなりの玉の転がるやうに鳴り 丑久保勲

昨日着た白シャツ椅子に掛けたまま 藤井美晴

お河童でありしマドンナ遠火花 瀬島酒望

蜻蛉やどうと云ふことなき遺跡 小山陽子

どさどさと朝の花野を通りけり 白石正躬

数珠玉の鈴なりを雨洗ひけり 安藤久美子

小坊主に菩提樹の実と教はりき 渡邊孝彦

和菓子屋の奥に喫茶部かき氷 國保八江

ゆつたりと翅を開け閉ぢ秋の蝶 久世孝雄

空蟬のみつつよつつを掌に 有賀昌子

秋の月屋根にしづかや鬼瓦 石原健二

抄 集 句 傘 大 崎 紀 夫 選

湯にあれば蝙蝠が飛ぶ蟬が飛ぶ 松村光典

浅草を歩き疲れて穴子飯 泉 一九

かなかなと鳴くその先を見つめけり 伊藤更正

道なりに行けば庭なり花木樞 岩藤礼子

山の湯の木蓋の重さ夜の秋 奥田温子

消しゴムのころりと床へ秋の夜 上林富子

端居して雀に放るパンの耳 菊地葉子

弾みつつ舟の行くなり鳥渡る 忽那みさ子

蟬しぐれ布袋の腹の艶やかに 黒木東吾

ラジオ手に今日も五千歩ねこじやらし 齋藤朋子

早天や用水番は堰開けて 眞田忠雄

何時までのふたりと想ふ虫しぐれ 武石京子

雲の峰再開発のクレーン二基 時田義勝

訪れし客に風船葛揺れ 萩原溪人

ゆるゆると旅の日落つる山法師 秋山信行

花野

白石正躬

利根川をたどつて来る秋の風  
どさどさと朝の花野を通りけり  
ちぎれ雲きては稲田に影おとし  
朝からの日差しの強き厄日かな  
秋出水あとに中洲の現れて  
草の穂の風にまかせてゐる日かな  
石段を登る足音秋澄む日  
川沿ひや住み古る郷の秋灯  
水切りの石飛んでいく秋夕焼  
白萩のあばれる枝の刈られけり

新涼

安藤久美子

冷房や吊革の輪の生ぬるき  
ストローと匙添へメロンかき氷  
生命線見て顔洗ふ夏の水  
八月の鏡に映る誕生日  
秋暑し空はあくまであをくして  
秋祭り夜店の灯り顔に揺れ  
つとふるる秋の風鈴ちりと鳴る  
新涼や野外音楽堂に空  
白萩や今宵の本に栞ひも  
数珠玉の鈴なりを雨洗ひけり

磴

渡邊孝彦

確と聞く初蝸のこ糸谷に  
みんみんや上<sup>ほつ</sup>枝<sup>え</sup>のゆるるプラタナス  
夾竹桃町屋作りの壁の板  
えごの実のたわわや池の水濁り  
八月の田のあをあをと法隆寺  
溝蕎麦や番いの鴨は水脈を引き  
風来れば風の来し方見る残暑  
小坊主に菩提樹の実と教はりき  
秋雨の磴のぼり継ぎ二月堂  
店頭の日向に黄玉りんごかな

かき氷

國保八江

石割桜青葉の枝を広げをり  
蝸のころを湯宿に着きにけり  
和菓子屋の奥に喫茶部かき氷  
北上川見下ろす坂や青楓  
海涼し方三間の五大堂  
足許に昼の虫鳴く瑞巖寺  
吾子はまた茄子の牛にて帰りけり  
孫描きし漫画を壁に夜長かな  
駅までは倉庫のつづく猫じゃらし  
大輪の菊花の並ぶ公民館

秋の蝶

久世孝雄

遠雷や訃報回覧廻りくる  
高速道下りてしばしの夾竹桃  
盆踊り炭坑節で締めくくる  
工事場の瓦礫の山や晩夏光  
嫁がせし娘の便り秋灯し  
ゆつたりと翅を開け閉ぢ秋の蝶  
通夜の席ひとつつまみぬ衣被  
モザイクのごとき早稲の田晩穂の田  
秋出水道路に鯉の躍り出る  
二十年経し御社の露の屋根

空  
蟬

有賀昌子

空蟬のみつつよつつを掌に  
櫛の上枝に三四枚のうす紅葉  
蟬しぐれ板木鳴らしてお茶席へ  
まつさらなゴールのネット罽雲  
罽雲シュートする子のひるがへる  
十一面千手観音一葉落つ  
秋の川木の葉山女のあるやうな  
池の面を番いとなりし蜻蛉飛ぶ  
猫来たる厄日の風に毛を立てて  
選抜のリレーアンカー天高し



鬼瓦

石原健二

田が乾き刈り時待つや倒れ稲  
倒れ稲刈る音軽しコンバイン  
切株のいづれも長き刈田かな  
野良仕事終へて目にする女郎花  
庭手入れ妻に似合ひの秋海棠  
土手下の草陰に咲く葛の花  
畦草を刈れば顔出す蓼の花  
鴨来る群れのかたち逆はず  
秋の月屋根にしづかや鬼瓦  
葉に付きし水玉ひかる吾亦紅

蟬

松村光典

救急のサイレン走る暑さかな  
稽古終へ冷えしビールを求め行く  
湯にあれば蝙蝠が飛ぶ蟬が飛ぶ  
腹みせて蟬のころがる昼下がりに  
地下鉄の通路に蟬のむくろかな  
かなぶんの踏まれてゐたる地下通路  
落ち蟬のけふの数かな散歩道  
名月を猫と見上げる小半時  
赤とんぼ樹の間に大き夕日かな  
バス待つも心愉しき秋の風

夏祭り太鼓の音の地に響く  
 炎天や鉄板のどと硬き道  
 映画館出て街路樹の残暑かな  
 折り紙の教室に居る秋の昼  
 ボール蹴る少年の声天高し  
 新米を先づ仏壇に供へけり  
 苦瓜のカーテンも良しゴーヤ食ふ

池田よし子

青田風縮緬皺の波を立て  
 石清水抱かれ眠る団子虫  
 病葉に痛し西瓜を入れし提げ袋  
 指に痛し顔隠しをり酔芙蓉  
 幼子の顔隠しをり酔芙蓉  
 朝ぼらけの顔隠しをり酔芙蓉  
 高原に雲ひとつなき星月夜

石塚清文

浅 草 を 歩 き 疲 れ て 穴 子 飯  
 刈 り 草 を 蹴 れ ば 虫 立 つ 香 り 立 つ  
 思 ひ 出 を 丸 く 映 し て 金 魚 玉  
 網 棚 に 誰 が 忘 れ し か 夏 帽 子  
 紫 蘇 の 葉 の 葉 脈 硬 し 昼 の 蕎 麦  
 蝸 の 声 す み わ た る 根 津 の 街  
 瓢 箪 の 凹くぼみ に 影 や 残 暑 な ほ

さ ば 缶 で 冷 酒 を 飲 む 誕 生 日  
 朝 涼 し 鳥 は ピ イ ピ イ 鳴 き か は す  
 遠 雷 に 干 し 物 し ま ふ 昼 下 が り  
 残 暑 か な 日 陰 で 鳩 は 草 つ つ き  
 か な か な と 鳴 く そ の 先 を 見 つ め け り  
 水 面 を す れ す れ に 飛 ぶ や ん ま か な  
 雨 上 が り か な か な の 声 増 大 す

## ◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
11月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	17日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	23日(土)	AM10:00	楽 天 会	文化会館303	廣 瀬 雅 男
12月	2日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	市民会館うらわ	丑久保 勲
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

11月のやぶれ傘句会は第3日曜日の17日です。

12月15日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR上野駅・公園口改札口。  
吟行地は上野動物園。句会場は滝野川会館(古河庭園前)404和室。上野駅  
から京浜東北線で上中里駅下車、徒歩5分。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733  
大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870  
廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565  
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ